114
A 750

大正十一年
大隈侯爵邸

一千八百八十一年一月一日刊行ワレシト
ン、パブリツク新聞抄譯

東洋ノ事情ニ深ク其心ヲ注グノ士ハ國會ガ所謂一石ヲ投ジテニ鳥ヲ得ベキノ機會ヲ有セルヿヲ發見シタリ是レ他ナシ即チ唯ニ立法ノ一小石ヲ以テスベキ而已既ニ前代ヨリ大統領ガ屢〻贊成シタル所ノ如ク彼ノ有名ナル日本償金ヲ返還スルヿハ只ダ我ガ名譽ニシテ道理ニ適シタル至當ノ事タルニ過ギザルベシト數〻ノ

4051

間想像セラレタリレガ故ニ久シク特別ナル注
意ヲ喚起セル所モナク其金圓ハ真個ノ所有主
ニアラズシテ尚ホ未グ國務省ノ手ニ在レバ近
頃ノ吟味ニ依レバ亞米利加國ノ商業ヲ擴充ス
ベキ最好ノ機會ハ恰モ我々ヨリ逃去ラントス
ル者ノ如シ今ヤ亞細亞諸國ノ人民ハ通商ノ必
要ナルヿニ醒起セラレ然シテ彼等ガ要求スル
所ノ物品ハ寧ロ英國ニ求ムルヨリ之ヲ我國ニ
望マントセリ然ルニ英國ハ凡ソ已レノ能ク所
ニハ何處ニテモ其足ガヽリヲ得ント終始意ヲ

用ヒテ片時モ怠ルヿナキニ却テ我國ハ毫モ其
交際ヲ增加セントスルガ如キノ事業アルヿナ
シ既ニ我々ハ其競走ニ於テ遲ニ後レタリ今ヤ
我國ノ進歩ヲ助ケント欲スレバ此ニ強ク活潑
ナル同盟ヲ得テ其補助ヲ受ルヨリ善キハナシ
如斯ク有益ナル同盟ハ得テ之ヲ求ムベキカ片
シ之ヲ得ベシトセバ我々ハ如何ニシテ其益ヲ
我國ニ爲サシムベキカ此ニ一個ノ問題アリ宜
シク國會ガ注意ヲ爲シテ之ヲ解明スベキ所ナ
リ

○

其答ヲ爲ス甚ダ亦タ難シトセザル所ナリ試ニ看ヨ日本ハ亞細亞大陸ノ鎖鑰ヲ掌握スル者ニシテ然シテ又タ入クラズ沿岸ノ弱劣ナル隣國ノ上ニ其權威ヲ震フベシ彼レ其力能ク我國ニ通路ヲ開クニ足レハ若シ我其勞役ヲシテ虛カラザラシムレバ彼レ喜ンテ之ヲ爲スベシ幸ニシテ今ヤ偶マ毫モ我ニ費スヿヲ須ヰズシテ我國ハ至大ノ恩惠ヲ彼レニ施スヿヲ得ルノ地位ニ在リ今日彼レノ要望スル所ヲ問ヘバ全ク獨立ノ權ヲ攫取シ然シテ現行條約ニ依テ被ラサレタル忍ブベカラザル困難ヲ脫却セントスルニ在リ蓋シ其一二ケ條ノ如キハ若シ我之ヲ友誼ノ心ヨリ思惟スレバ我ニ損失スル所ナク彼レニハ實ニ堪ユベカラザルナリ然ラバ日本ノ要望スル所ノ目的ニ從ヒテ敢テ之ヲ違犯スルナク新條約ヲ履行スレバ二國ノ間ノ困難ハ十中其八九ヲ除去スベシ然シテ先ヅ取敢ヘズ其手始メトシテ不正ニ責取リタル償金ヲ返還スルヿハ必ズ將來ニ就テ安全ナル信用ヲ惹起セ

シムルニ足ルベシ我國ニ向テ日本ノ最モ大ダシク歎訴スル所ノ一事ハ歐羅巴ノ最モ微弱ナル國ニ於テモ尚ホ之ヲ所有セル自己ノ關稅ヲ自ラ支配スベキ權ヲ我ガ拒メルヿナリ若シ我今マ我假條約中ノ此嫌厭スベキ條欵ヲ廢スヿヲ彼レ必ズ直チニ米國ノ通商ニ特別ナル利益ヲ供シテ先ヅ之ニ報シ然シテ將來其力ヲ盡シ我國ヲ扶助シテ以テ東方亞細亞ノ高權ヲ專ニセシムベシ今其我國ニ用立ツ所ノ力ヤ已ニ大ナリ此後十年ヲ經過シタランニハ實ニ非常ノ者ナルベシ之ヲ得ンガ爲メニ我ノ盡ス所ハ僅カナル至當ノ義務ヲ遂グルニ過ギズ其中ニ於テ先ヅ第一ニ著手スベキ最モ容易ナル者ハ此償金ヲ返送スベキナリ如斯クニシテ同一ノ石ヲ以テ二個ノ鳥ヲ落シ得ト云フベシ久シク怠リタル名譽ニ関スル負債ヲ償還ス可シ然シテ是レ實ニ我商業上利益上一ノ純撲眞直ナル事業ニ始マレル重要ナル一處置トリ